

つるのおんがえし

「ご縁」をいただいたあなたへお届けする、「大きな想い」の「小さなお手紙」



いろいろな所へ
行ったなあ～



半年ぶりの「つるのおんがえし」となりました。ご無沙汰しております。感動・創庫の芦川永光です。今年の夏以降にご縁をいただきました方々には初めてお送りします。この「つるのおんがえし」は、子供の頃から今まで続くあだ名で「つる」と呼ばれています。私、芦川からお送りする大きな想いを込めた小さなニューレターです。

長くけわしい一年でした

さてさて、2018年もひと月を切りましたね。この時期の常套句といえば「あつ」という間の一年でしたね。ですが、今年の私はそれをサラッとと言えるような感じがありません。特に夏以降は色々悩んで学んで、とやってきた結果、毎日があつという間に過ぎることはなく、とつても長く感じられました。そして、何よりも仕事を優先にして自我を保ってきた私ですが、夏場から勇気を振り絞って仕事まみれの状態から離れて、家族と過ごす時間を大事にするようにしました。

仕事が減る恐怖や、承ったデ

ザイン案件が終わらない不安、会社が機能不全になるのではという心配などが湧きあがってくる中、家から徒歩3分の距離にある事務所なのですが、あえて行かないようにしていました。

「子育て四訓」と組織の成長

子を持つ親御さんでしたら、これらの言葉は聞いたことがあるでしょうか。

- 1 乳児はしっかりと肌を離すな
- 2 幼児は肌を離せ、手を離すな
- 3 少年は手を離せ、目を離すな
- 4 青年は目を離せ、心を離すな

私はこの「子育て四訓」に示されているのは、子供にとつての親離れという言葉があります。が、実は子供よりも親の方が離れがたく感じるもので、親にこそ手放す気概が求められるのだらうと思いました。

さて、話の続きで会社の話題に戻り、どう手放していく？となるわけです。私はおっかなびっくりしながら少しずつ事務所から離れたわけですが、いっしか感動・創庫は天中殺で弱切った社長に頼る必要はなく、スタッフがエネルギーに励

ましあって、万事滞りなく運営されるようになったのです。

そこで考えてみました、私なりの「会社四訓」

- 1 創業社長はやり切るまで役割を離すな
- 2 社員の成長を望む職場は役割を離せ、責任を離すな
- 3 社員が自律した職場は責任を離せ、数字を離すな
- 4 社長不要の段階では数字を離せ、ビジョンを離すな

うまくまとまりました！仕事はおかげさまで増える一方で、デザイン事業も大変優秀なデザイナーさんとのご縁によって、これまで以上のクオリティと作業速度を得られました。今、最高に脂が乗った状態です。会社は私の不在によってさらに活性化しました。本当に頼もしい人たちです。私が外で得られる経験をそのまま伝えて、ビジョンとして共有できるという、涙が出るほど嬉しい状態です。

天地八方すべて良しになりつつある年末。来年はいよいよ…構想実現の一年です。自分自身も成長が楽しみで仕方ありません。



心に響いた 感動の本



今年は劇的に変わりたいと願って、ビジネス書以外の本をたくさん読んだ一年でした。今までだったら内容が難しすぎて避けるような本でしたから、読み終わった途端に何もかもが変わってしまいました。

ということで、今年のベスト5冊をご紹介します。

流れとかたち



文句なしの今年一番、いや生涯一番かもしれません。まず、デザインは偉大であるということ。そして、テレビが、ネットが、学者が、政治家が、評論家が、私よりもはるかに偉い人たちが、何をどう言おうとも、世界は良くなる流れであると知りました。

タイトルからは想像しづらい内容ですが、大いに励まされ、勇気をもらいました。



ガイアの法則

ここ数年でお会いした人には、打ち合わせやセミナーなどで必要に応じて「関西の方に～」とお話している内容の詳細です。

日本の現状を悲観的に見ていたら、この本はそんなあなたにとっての処方箋です。はるか以前の、文明の変遷を歴史から紐解いていて、この次の世界のリーダーは日本じゃん！とわかる本です。

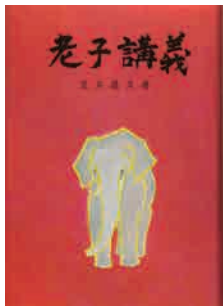
2050年の技術

英『エコノミスト』誌は予測する

未来のお話しは誰でも興味があるはずですが、どれを読めば良いのかアマゾンでは選びづらいので困りものです。私はこの本をブックオフでたまたま見つけてラッキーでした。

内容がとてもわかりやすく、時間がない方は各章の終わり部分だけを抜粋して読めば、将来こうなるんだなあという筋はつかめます。

どんな未来も良い悪いで押し量るものではなくて、自分はどう感じる？ どうしたい？の方が大事なんだなと気付かされました。



老子講義

老子という人の数々の金言を解説付きで説明している本です。紀元前の中国で活躍された哲学者みたいな人とされていますが、一人じゃなくて複数のチームだったとか、謎の多い人です。

彼のメッセージは自然そのものなので、現代に置き換えると小難しく感じるかもしれません。ゆえにすべて受け入れられたら、これほど自由に楽になれる言葉はありません。この本の影響で私は毎晩祈るようになりました。

消費者ニーズハンドブック

モノ・サービスが動くときに必ず存在するニーズについて、読めば読むほどよくわかる本です。もしあなたが成熟市場での競争を余儀なくされているのなら、迷わずこの本を手にとってください。商品・サービスを買うときの心理、ニーズについてをこの本で読み解ければ、明日からでも売れる新商品・新サービスの開発ができるようになります。一生手元に置いて読み続ける本ですね。



おまけ

ティール組織

今読んでいる最中の本ですが、2019年以降の会社組織のあり方に橋がかかる一冊だと感じています。これを読んで来年を迎えられることに、ワクワクが止まりません。



2019年もたくさん読みたい!!



一年を振り返ることは十分に書きましたので、今年最後の編集後記は皆様への感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

あの時はすみませんと謝りたい人もいます。調子に乗って恥ずかしい姿を見せちゃった人もいます。これから色んなことがどんどん速度を上げて変わっていきます。そうした中でも、あなたへの想いは変わらぬに、あなたのために一層頑張ります。この先、もっと良い世界になっていくのを、一緒に見れたら嬉しいです。

一年間ありがとうございました。来年もどうぞよろしくお祈りします。

編集後記

